

第3回米沢市環境審議会 会議録

1 日時

令和5年3月16日（木） 午後2時～午後4時

2 場所

米沢市役所3階 303会議室

3 出席者（順不同、敬称略）

（1）出席した委員

中川 恵、白壁 洋子、柴田 正孝、小嶋 淳子、長澤 暁美、高山 栄、
塩越 憲夫、福島 正道、山口 正廣、井上 浩之、滝澤 誠、吉田 司、
山田 みどり

（2）欠席した委員

石塚 久子

（3）事務局員

安部道夫市民環境部長、石黒龍実環境生活課長、富取千代子課長補佐、
栗野真一郎環境主査、吉池賢太郎主任、後藤大樹主任
目崎秀也産業部森林農村整備課長

4 会議の概要

（1）開会

（2）会長挨拶

開催に当たり、米沢市環境審議会会長から挨拶がなされた。

（3）議事事項

①事務局から市域における木質バイオマス発電について説明があり、その後質疑応答がなされた。

《事務局から木質バイオマス発電の資料について説明》

事務局	<p>・前回の報告の際には令和4年12月28日に事業者が米沢市を訪問されて、詳しい説明があると伝えていたので、本日はその結果を踏まえながら資料を添え説明する。</p> <p>【資料説明】</p> <p>・米沢市では4つの発電所（7,000kW×2、2,000kW×2）を建設することとして</p>
-----	--

おり、発電所がフル稼働する場合燃料となるチップの使用量は年間 22 万 t であり、これを安定的に調達する体制づくりが最大のテーマとなるとしている。

- ・既に 3,000ha 以上の山林を取得済で、2030 年までに 2 万ヘクタールの山林を直接購入、取得を進めることとしている。12 月末に事業者と話した際は、既にその倍ぐらいの米沢市内の土地の購入を進めているとのこと。

- ・事業者が求めているのは発電用の燃料材を供給できる山林であり、建築用材の生産を目的にしている山林ではない。燃料材を伐出した後は可能な限りコウヨウザンやユリノキ、ユーカリなどの早生樹を植えて、10 年から 15 年ぐらいの短伐期で循環するバイオマス林に転換することを考えているとのこと。

- ・今は FIT（固定価格買取制度）で進めているが、脱 FIT に備え、地元の市町村などと協力しエネルギーインフラとして自立できる仕組みを作りたい。さらに今回の燃料材の集荷圏を基本的に半径 50 キロ以内、遠くても 100 キロ圏内で調達したいとのこと。

【令和 4 年 12 月 28 日の事業者との打ち合わせの報告】

- ・燃料とする木材の調達は年間 22 万 t が必要で、そのうちの半分を協力会社から調達し、残り半分を地元林業者と自社の伐採チームで取得するという説明があった。

- ・原料の安定供給体制の確認のため「地域の森林成長量を考慮した事業計画となっているのか」、「伐採計画はどうするのか」と質問したが「明らかにできない」と回答があった。なお協力会社についても、どこから木材を伐ってくるのか説明がなかった。

- ・開発には色々な環境的な問題が付きものであり、事業者がどう考えているか尋ねたところ、「メリットの方をまず意識してほしい。デメリットのみを見て反対ありきの対応みたいなことをやめてほしい」との回答があり、具体的にどういう問題が考えられるかについては説明がなかった。

- ・本市としては、再生可能エネルギーの導入を推進する立場であるが、それに伴う悪影響が出ないのかを無視することはできない。事業者なりの考え方と地域で生活している我々市民の視点が少しずれているかもしれないので、丁寧な説明に協力願いたいと伝えた。また、地域の森林面積には限度があり燃料材の争奪戦にならないのかという質問と米沢市環境審議会でも今回の話を報告する旨を伝えたいと、皆伐などが進むのであれば最近の気候変動もあるので、将来土砂災害の発生も懸念されるので今後も説明をお願いした。

【直近のやり取り】

- ・農山漁村再生可能エネルギー法の活用によるバイオマスエネルギーの取組要件を市に認めてほしいと言う要望があった。要件を満たすものとして認められると、出力制御の順番が後回しもしくは制御の対象外とすることができるので、制御の対象外になりたいので、取組を認めて欲しいという話であった。

委員	<p>資料を揃えていただいております。</p> <p>知りたい部分ですが、すでに事業がここまで進んでしまっており何かを言うのが難しい。事業者の所有の面積がここまで増えており伐採する場合は皆伐だと思いが、先ほど映像で見せていただいた土砂災害のようなことになったら大変である。でも、それを止めることができないとするとどうしようもない。</p> <p>米沢市でも森林整備の計画があるが、その計画はこのようにしようというものであり、課長がいらっしゃるところですみませんが、規制がかけられない弱いものである。</p> <p>ある程度規制をかけられるよう、米沢市の森づくり 100 年計画のように、100 年構想みたいなものを作って市の考え方として、私たちはこういうふうな森を作り守っていくようなことを示す必要があるのではないかと。</p> <p>米沢市の場合は 100 年構想みたいなものがなく、森林整備計画は国の計画があり、県、市に降りてきたようなものなので本当に規制も何もできないという感じだと思います。</p> <p>実は国の森林整備の検討会に出ており、皆伐は概ね 5ha までとの根拠について毎回聞いているが出てこない。森林総合研究所の資料で生物多様性を考えた森づくりだと 3ha、ヨーロッパの林業先進地だと 2ha と出ている。皆伐は多くても 2ha と出ているのに、5ha は大きくないか。この数字の根拠が欲しいと言っているが、なかなか出てこない。</p> <p>そうなってくるとこれから皆伐して行く時に、5ha だとちょっと足りない、10ha でもできるのではないかとというようなことになってしまったら大変である。</p> <p>事業に何が何でも反対というわけではなく、先ほどの 100 年構想のようなものを作りながら森林をどう守っていけるのか、私たちの暮らしにも関わることなのでそのようなことができないかと思っている。</p> <p>そういう構想を持っていないとバイオマスの燃料、木が欲しいのでどんどん伐られてしまうのが今の状況だと思います。</p>
事務局	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>まず委員がおっしゃる 100 年構想というのは素晴らしい計画で、そういったものがあれば米沢市の森林をすごく活かせると思う。しかし、今は材価の問題や供給の体制などによりそういったことが図られていないため、市の計画としてはそこまで至ってないところです。</p> <p>そして、木質バイオマスの事業ですので今の電力会社は FIT の認定を得て行っています。その中で売電単価を高くするためには、主に間伐由来のバイオマスを利用すると売電単価が高くなります。</p> <p>そのため、この会社は間伐を中心に進めていきたいという考えでございます。一方、委員が心配されている皆伐につきましては、経営計画という制度がございます。これはいかに森林を整備してその中で伐採を進めてかつ再造林を進めていくかという計画です。これは米沢市内で収まるのであれば本市が認定を行うわけ</p>

	<p>ですが、この会社につきましては、福島県にも供給地を持っており、福島県、山形県に跨るため計画の認定は林野庁に行く予定であり、東北森林管理局に計画を出して認定されて、その上で皆伐、主伐をしたものが間伐由来のバイオマスの木材ということで高い値段で売電できるという仕組みでございます。この経営計画の中で行き過ぎた伐採を止めて森林の整備や再造林する。そういったことをやっていければと今のところは思っているところです。</p>
会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>皆さんご意見があると思うがここでその議論をすると、本題にたどり着かないと思うので、中断するわけではなく引き続き市役所と我々審議会メンバーでこの事業について、注視していきたい。</p> <p>最初に申し上げたとおり、条例といったそういう大上段の大手法に行かなくても、環境審議会からの提言やそういう形で抑止や自制、先ほど委員もおっしゃっていたようなところを自制してもらうための抑止力となるような形だと、思いのほかいけるのではないかというふうに思う。</p> <p>健全な事業者で計画どおりするのもかもしれないし、その辺を注視していきながら見守り続ける。そしてアクションを起こすべき時には起こすという形にして、議論を断ち切るわけじゃなくて、引き続き進捗状況を注視しながらその都度テーブルに上げていきたいと思うので、その旨ご了解いただいて、本論に進めさせていただく。</p> <p>ぜひこの場で聞きたいことや分からないことなどあればご発言いただきたい。</p>
委員	<p>質問をさせていただく。</p> <p>12月のヒアリングで事業者に回答がもらえなかった答えを私たちが聞きたいが、これについてはどのようになる見込みか。</p>
事務局	<p>先ほどの報告の燃料の安定供給については、今年1月か2月にはお知らせできる見込みとの説明があったが、現時点で報告をいただけてない。今後、催促などをしながら具体的にどのように燃料調達を考えているのかというところは聞いていきたいと思っています。</p>
委員	<p>デメリットを置き去りにした開発は決して良いことがないのはこれまで事例であったとおりで。</p> <p>あえてそれを素通りしようとするのはちょっと危惧するし、2県に跨るのであれば、情報をぜひ共有していただきたい。</p>
委員	<p>とても関心の高いテーマが進行中なので、どこかのタイミングで事業者から説明があるとそうした疑問にも答えられるのかなというふうに思って聞いていた。</p> <p>環境フォーラムのような位置づけなのかちょっと分からないが、春から夏とか、タイミングの良いところでレクチャーする旨を公開して、質問も受け付ける会が設けられれば、それまでに情報収集、また懸念事項も整理できるかなと思うので、そうした会議を開けないかと打診していただくこともありえると考えた。</p>
会長	<p>今、ご提案があったものも大変有効な手法だと思われる。</p> <p>その前に審議会で、計画内容を含めていろんなご意見を事業者からお聞きする</p>

	<p>ような会を開いても良いかもしれない。</p> <p>その前段で、市民の方を交えて、今の課題、状況を聞かせてもらうのも一つの手法であると思う。事業者が言うように、行き過ぎた反対運動は審議会の本意ではないので、その辺を踏まえながら進めていただきたい。</p>
--	--

②再生可能エネルギー導入目標（案）及び令和5年度環境審議会について事務局から説明があり、その後各委員から発言がなされた。

《事務局から資料説明》	
事務局	<p>本再生可能エネルギー導入及び温室効果ガス削減の目標達成に向けた具体的な施策内容については、省エネの推進を含めて令和5年度に実施する温暖化対策実行計画の見直しの中で議論していくので、次年度も委員の皆様にはご協力をお願いしたい。</p>
委員	<p>2050年に向けてという話であるが、山形県のガイドブックについて、平たく言えば生活そのものがしみ込んでいる内容である。</p> <p>地域の特性等もあるのでこういう形にシフトチェンジをしていくためには、早くから市民に理解していただく取組をしていくことが必要である。</p> <p>特に、前にも話したが電気自動車のEVスタンド等はまだまだ足りない。市民や地域の特性など色々なものを同時に進めていかないとこの計画に沿っていくというのは、かなりのハードルの高さではないかなと思う。</p> <p>カーボンニュートラル達成に向けて待ったなしなのかもしれないが、誰一人取り残すことなくという観点からいけば、市の中心部から周辺部について同じように取組を感じられるようぜひ施策を立てながら、やっていく必要があるのではないか。</p>
委員	<p>ソーラーシステムと木質バイオマスについて、ソーラーシステムは有効性が高いのでそれを設置するところまでは仕方がないと思うが、自然環境に影響を与えるとなかなか回復ができなくなるのでそこを一番心配している。</p> <p>全国各地で街並みの景観の連続性のある美しさ、歴史・文化・風土を大切にするという活動が活発になっており、米沢市でも昨年から特に繋がっている。</p> <p>そのような景観や自然の美しさに十分配慮し、設置する場所や台数等を検討したうえでソーラーシステムを設置していただきたいと強く思っている。</p> <p>木質バイオマスはとても大事だと思い何度も申し上げているが、審議会冒頭のような説明があるとちょっと不安になる。</p> <p>やはり木質バイオマスそのものは、長期的に見て正しく運用すれば、地産地消や自然環境の保全などに繋がる。人間に最も優しい持続可能なエネルギーの創出になると思うので、そちらも中長期的な取組を早くしていただきたいと思っている。</p> <p>別件になるが、最近市外の方が米沢の土地をあちこち購入、居住しているということを知る。家を買うということは地下にも影響力があり、地下にあるものも大切な資源なので、米沢市として地下水を守る、或いは先ほどの山林の伐採につ</p>

	<p>いても市としての考え方というものをしっかりと決めていただきたい。</p>
委員	<p>私の方からは根本的な部分に関する意見はない。すばらしい計画書だと感謝している。</p> <p>ただ2点ほど表示の仕方で、改善、追求したほうがよろしいのかなと思う部分がある。</p> <p>1点目は資料1の66ページの2030年度の再生可能エネルギー導入目標の規模感についてである。</p> <p>太陽光発電や陸上風力発電について、太陽光の建物系だと29メガワットと具体的に入っているが太陽光発電パネルの稼働率と設備利用率のどちらをとるのか。何らかの指標、どういう係数を使用しているのか。係数を入れないと導入目標量が出てこないが何を使用したのかが記載されていない。</p> <p>これも詳しく調査、検証する事業者等が必ずいると思うので稼働率や設備利用率等の計算した過程で使われたものを表の一番下などにも入れた方が無難ではないかと思う。</p> <p>例えば、100万kWの原発を再生可能エネルギーの太陽光発電で賄う。これを行う場合に100万kWのパネルがあれば同じ能力が出るというわけではない。100万kWの約5倍、500万kWのパネルを用意しなければ原発に立ち向かえない。</p> <p>このようなことを説明するときに使われるのが稼働率や設備利用率ということになるので、ぜひそこを明記しておいた方がよろしい。</p> <p>もう1点は将来のことだが、資料4において最後までブレイクダウンされた具体的な施策、行動指針があるわけだが、米沢市としてのエアコンの温度設定の推奨値がどこにも見当たらない</p> <p>よく私も家族内で温度設定について感じ方の違いからトラブルになる。そのため、どこかで米沢市はこれでいきますよというような温度設定があればよいと思う。</p> <p>例えば冬の間は暖房20度にするか19度にするか。1℃の違いで、13%の省エネになると言われているので、何とか推奨値を出せたらよろしいのかなと思う。</p>
委員	<p>2つあり、1つ目は省エネ対策という言葉がなかなか出てこない。省エネ対策をした上での再エネの導入ということでなければいけないと考えている。</p> <p>具体的には76ページに方向性、表3の全体の中で省エネを謳ったほうがいいのか。</p> <p>それと同時にここにある重点対策、5番のところにも省エネを徹底し対策するというを入れていただいて、この中では行政の役割となるわけなので、地域の再エネを利用することにした方が良いのではないか。</p> <p>それから2点目は、やはり森林についてである。基本施策の4番目、82ページに森林の吸収源対策がある。この具体的な施策では適切な森林更新というすごく簡単な言葉になっているが、ここは具体策なので、間伐など適切な森林</p>

	<p>整備、主伐もするわけなので主伐再生林の促進ということを入れながら、なおかつ、ここに市産材の安定供給ということも入れないといけないと考えた。</p> <p>ここは項目が2つしかないが、この中に先ほど委員から文化的な街並みというようなお話があったが、都市緑化の推進などを行っているわけなのでそのようなところも入れながら、市民を巻き込むということも入れてはどうか。</p> <p>同じく森林整備に関して83ページ、重点対策の1番、具体的には2つ目について森林整備と簡単に記載してあるがこれは主伐・間伐になると思う。</p> <p>それから次の市産材の確保だが、これはその場限りではないので安定供給であるということが必要ではないかと思う。</p> <p>その下に薪ストーブについて記載があるが、ボイラーについて今回から無くなっている。そちらについては前回の話で推進していくということだったと思うのでそれを入れながら、木質エネルギーとしてボイラーのことも考えるという形でいかがか。</p>
委員	<p>一応得意分野としてはソーラー発電なのですが、米沢は皆さんご存知のとおり豪雪地帯でなかなか太陽光パネルを上げられる既存の家が少なく、南を向いた片流れのようにある程度勾配がないと太陽光パネルが割れる。保険に入っていれば多少保障されるが3年も4年も続けて保障されるわけではない。2年目くらいで勘弁してくれと言われて保険に入れなくなるような壊れ方をする場所なので、1万世帯に太陽光を乗せるとなるとほぼ新築1万件なのでこれからは行うのはちょっと難しい。</p> <p>そう思うので、既存の家や土地があるところだったら地べたに架台を組んで作るとか、カーポートの上に斜めにしてつけるとかいろんな方法あると思う。</p> <p>ただし、それ以前に建設会社が太陽光なんか駄目だとみんな思っているのでお客さんに勧めないというのが問題かなと思っている。</p> <p>あともう一つ、銀行でも太陽光なんかつけても駄目ですよという行員さんもいらっしゃるので、それを聞いただけで太陽光関係なくやっている事業者さんに移っていくような実態が結構ある。</p> <p>だから行員さんにそういうことを勉強してもらって、太陽光を上げたらどういうメリットがあるのか、それをお客さんにきちんと説明できる会社が多くなればもっと普及できると思う。</p> <p>あとは少し関係ないけど、私の会社でもストーブを時々お客様の希望で導入するが、今の時点で薪の調達がだんだん厳しくなっている。</p> <p>それこそ1万世帯に薪ストーブなんていうとバイオマス発電などとかぶってしまい調達できないのではないかと考える。</p> <p>現に小国で薪を作っている会社さんは、関東の方が単価高く売れるから向こうに運んで地元には売っていませんという話を聞く。</p> <p>そのような実態があるので、ストーブは本当に暖かく高断熱の家につければ燃費もいいが、燃料の薪の値段が高くなり手に入らず結局あまり燃やせなかった、そのようになるのではないかという懸念がある。</p>

	<p>ここでは関係ないかもしれないが、ごみの分別について、もちろん市民に理解してもらうことも必要だがもうちょっと市の方でも一生懸命やっていただきたい。</p> <p>極端な例だと水俣市。ごみは水俣ブランドと聞いたことがあるがすごい細分化した分別をすることによって、そのごみが売れてそれにより市の財政も少し潤う。あと、完全に燃やすものについてプラスチックから生ごみまで全部まぜて発酵させて乾燥させる。これをペレット状にして、火力発電に使うという方法もある。</p> <p>ごみの処分には色々な方法がある。今の千代田クリーンセンターだとごみを燃やしたちょっとした熱で電気を作っているが、本当にごみを燃やしているだけである。副産物でちょっと電気が出るかなぐらいの発電なので、それをしっかりした発電に変えるとかいろんなことが考えられる。</p> <p>あと、米沢市や置賜関連で浅川の埋め立て場など土地が余っていて、一生管理していかなきゃいけないような場所がある。そういうところを市で整備してもいいが地域新電力の事業者などに整備、利用してもらいながら発電所を作るなど、そのようなことが考えられるかなと思う。</p> <p>バイオマスの燃料について河川敷の整備は県の管轄かもしれないが、ああいうところに色々な雑木が生えており、現在どこの川もかなりあれているように見える。そのようなところをバイオマス発電事業者に伐採してもらう。土などはもちろん県の方で整備しなくてはいけないと思うが、伐採などについて、無料なのか安くなるのかは分からないが、そのような行政との協力などがあってもいいかなと考えている。</p>
委員	<p>私の方から2点聞きたいことがある。1つは資料3の審議事項に関連しての質問になるがこの導入目標量がCO2の目標を達成させるための逆算で作られているものなのか。その実現性と差異はどういうふうにしていくのか、どういうコンセプトで作られているのかについて質問したい。</p>
事務局	<p>まず、こちらの表を見ていただいて、皆さんびっくりされたと思いますが、目標を達成するためにはこのくらいしないと駄目という理論になります。</p> <p>では、実際に実現可能なのかと言われると2050年については技術革新を待つ、というような考えになります。</p> <p>2030年につきましては、国が国連に報告しておりますので達成に向けて頑張りましょうという考えです。</p> <p>ただ、道は険しいということを分かっていたいただきたいという表であると認識しており、回答としては、逆算であり、厳しい道のりとなっておりますという回答です。</p>
委員	<p>2点目はバイオマス発電の計画についてだが、私は立場的には競争相手になるので委員の立場というより、1事業者、個人の立場として、公式なコメントではない前提で意見を述べたいと思っている。</p> <p>弊社は現在全国で9ヶ所目ぐらいの中規模、7,000kWクラスの発電所を運営し</p>

	<p>ているが、その視点からいうと最初に説明があった事業者の計画というのは、全く無茶な計画にしか思えないというのが感想である。</p> <p>ただ競争相手の立場のため、あまりそれを言うといけないと思いき条件つきで申し上げてるところである。</p> <p>一方、最初の DVD で主伐を進めると自然災害につながるというような映像もあったが、これはバイオマス発電が導入され今まで山に放置してた原材料を燃料利用するという大きな目的でスタートしたわけである。</p> <p>これについては、10 年が経過した今でもすごい効果があったのではと自負しているところである。</p> <p>そのように経済的に動き始めると、必ずそういうマイナスな問題が発生する。</p> <p>私がよく人に説明した時には自動車もルールを守らなければ、とんでもない凶器になる。毎日ニュースになっているが、やはり皆さん車に乗っているわけなので、安全に運転するということが今や常識になっている。</p> <p>一つの事業が形になってくる途中では、必ずそういう議論が出ると思う。</p> <p>今回のプロジェクトについて、審議会で招聘したらどうかというご意見もあったが、往々にして後から気がつかないうちにこうなりましたという、今回も知らないうちに 4,000ha も購入して事業をするみたいな感じになっている。しかし、審議会で何を目的に出させていただいて、何をどう守っていくのか、車で言う交通違反がないように見守りましょうという、きちっとしたルールを整理した上でお越しいただかないと、事業者にしてみたら審議会で皆さんの前で説明しましたよ、といいようにとられてしまうのではないかと懸念がある。</p> <p>迎えるのであれば大変かと思うが、協力させていただきますのでそこをきちんと整理した上でしたほうがよい。</p> <p>もちろんルールを守り米沢市に貢献、活性化できるような事業者であれば、事業を進めていけばいいのではないかと思う。しかし、本当に私の主観になりますが、ちょっと無計画でありこのまま進めていくのはまずいのではないかという意見を正直持っている。</p>
委員	再生可能エネルギー導入目標に関する意見はない。
委員	<p>率直にお話させていただきますが、例えば最初のバイオマスの話はめちゃくちゃなものに聞こえた。</p> <p>私自身は太陽光発電を研究しており、友人にバイオマスをしている人もいますが、共通の認識として、そもそもエネルギーのために樹木を育てることがありえない。対象にして考えられるのは廃棄物だけである。循環するわけではない。</p> <p>なぜかという、例えば光合成のエネルギー変換効率は最良でも 0.3%である。それに対して太陽光発電は 20%であり、同じ面積で取れるエネルギーが全然違うので絶対に循環しない。</p>

1 回木を切り始めると更地になってしまうということがはっきりしているの
で、かなり無謀な計画に聞こえた。

県の目標等の発表したものの議論の行方を見ているとわかるが、カーボン
ニュートラルの達成といったことに対してはテクニカルな問題と経済的な問題、
ここにどうしても集約されてしまうという感じがする。

それが満たされればやらないことはないというふうに思えるが、実はそれを
言ってしまうと多分いろんな意味で壁にぶつかることになるだろうと思う。

米沢市の審議会なのでまずは米沢市のカーボンニュートラルの中間目標の達
成に向けて、もちろん数字の達成をしないと励みにならないので次のステップ
にならないというところがある。しかし、そもそもカーボンニュートラルの目
的である気候変動を止めるということは世界全体で達成しなければならない。

日本は CO2 排出量がどれぐらいかというところ全体で 3% ぐらい。そのため、結局
日本 1 国でどうこうという問題では実はない。

格好つけるためにも、もちろん達成しないと日本のメンツに関わる問題では
あるが、例えばセメント工場がある街があればカーボンニュートラルの達成は
絶対に無理。とてつもない量の CO2 を出すので区画整理をして、市がその会社
を外に出してしまえば、うちは CO2 を削減しましたって話になってしまう。結
局押し付け合いをしているだけ。

全体として減らしていくという長期なシナリオを考えた場合に、あまり過度
に数値目標の達成に執着しないほうがいい。正直今のグローバルな状況を見
ると、ほぼ達成しない国の方が圧倒的になると思う。日本も目標を投げ出さな
いといけなくなるかもしれない。

中間目標に対してはもちろん一生懸命取り組んでいるというファイティング
ポーズを見せる必要があるが、そんなこと全く気にしていないような国もいっ
ぱいある。

いわゆる途上国であるとか、新興国。中国も確か 2040 年までに減少に転じ
ると言っているだけでそれまで増やしていいと言っている。世界最大の 3 分の 1
の CO2 を出している国がまだまだ増やしますよと言っている中で、これはちょ
っと余りにも非現実的である。

その中でいろんなレベルの活動が始まって 2 年ぐらい交流活動などをさせて
いただいて、感じることはまず大人たちはかなり無関心の人が多い。リピータ
ー、そういう場に足を運ぶ人というのはいわゆる意識高い系の方でそういう方
はめったにいない。

一番ビビットに反応したのが先日北部小学校で話した時の子どもなど、3 つの
小学校でお話しさせていただいたが、子どもたちの食いつきが圧倒的に多か
った。

やはり全部の生き物が死んでいることに対してすごく率直にショック受け
る。結局今彼らが作っていく未来について、資料を見るとかなり非現実的な
ことが書いてある。

	<p>例えば、休暇は近場で公共交通機関を使いましょう、できるだけ車を使わないようにしましょうというなら、最初から車を作らなきゃいいという話になってしまう。</p> <p>だからクオリティオブライフをどう考えるのかそこは再定義をしないと全体として減る方向にはいかない。ある方と先日話をしたが、稼ぐというのはちょっとトーンとして気になる。これはもちろんインプットがなければ、維持していくこともできない。我々はいろいろな物を消費して生きている生き物なので、必ずどこかでバランスをとる必要があるが、そのインプットとアウトプットを最小限にして、クオリティを維持していくという考え方が重要だと思う。</p> <p>従来の延長上にあるような、拡大をしていく、いわゆるグリーン成長にはものすごく矛盾を感じる。そういう方向性で行くと絶対に破綻する。</p> <p>だから今重要なのは何がクオリティなのか、こういう生き方が素晴らしいと再定義していく必要がある。</p> <p>例えば、私は岐阜の生まれで20年ぐらい前に米沢に来たが、雪にびっくりした。この厳しい気候の中でやっぱり生き延びていくという非常に持続性ある循環型の社会、そういう文化が育ってきたのだなとすごく感じた。</p> <p>そういうバリューというか、新しい生き方、豊かさというのをもっとこの地域から発信するようなことに取り組めたらこれは数字の減少以上に大きなインパクトがあるのではないかと思う。</p> <p>実はテクニカルなことはわかっているがゆえに、そこに執着しても全部非現実的に見えてしまうというのが正直な感想となる。</p>
会長	<p>SDGsについて非難というわけではないが、ローカルの問題じゃない。確かに極論を言ってしまうと、巨大企業に税金を課してそれを使った方が効果がある。</p> <p>だけどそれは言ってしまうとどうしようもないので、ローカルのいわゆる方向性だとか、今委員がおっしゃるような生活クオリティを維持しながらどういうスタンスで臨んでいくのかということに焦点を当てながら望んでいくしかないと思う。</p>
委員	<p>1人当たり年間7,600kgのCO2の排出に関与している。それを自覚して、ゴミ問題などを考えながら、自分でできる範囲内で行動することが大切だと思う。</p>
委員	<p>81ページ、基本1の10番目に再生可能エネルギーの適切な導入を促進するための条例を制定するというのをいれていただいて大変ありがたいと思う。</p> <p>やはり市民を置いていかないというスタンスが大切である。いろんな条例、ルールを作りながら、委員が言われたことに反するかもしれないが2キロ以内は車に乗っていかないようにしましょうとか、そういったルールづくりをしながら市民を巻き込んでいくというのが大事なことはないかと思っている。</p> <p>基本施策1の4、行政の率先的な行動として公共施設の改修・新設時に再生可能エネルギーを導入するというので、行政が主体となってモデルを示していくことは、色々なところへの波及効果が大きいと思う。行政でなければできな</p>

	<p>い部分もあると思うので、ぜひモデルを作っていたきたい。</p> <p>特に酒田市の市庁舎に地下水を使った冷暖房の増築や新潟駅の前にヒートパイプで歩道の融雪などもしているの、ぜひそういったことで雪国でも再エネを使って利便性の高いことができるのだということを広めていけば米沢市に住みたいという人の増加に繋がっていくのでいいと思う。</p> <p>もう1つコンパクトシティの形成というのがあったが、そこはコンパクトシティとデジタル化、SDGs に関係することだと思うが、車を使わないようなコンパクトシティの形成や紙を使わないようにするためのデジタル化ということで、これらを進めていくことについても大切なことであり、このことに記載があってよかった。</p>
委員	<p>非常にわかりやすくまとめていただいてよかった。</p> <p>関連性について80ページの基本施策の図の1番に再生可能エネルギーの推進とありこのタイトルが①になっているが、81ページでは基本施策の1となっている。そこだけずれてしまっている。</p> <p>それ以外に、具体的なところだが、基本政策の2番、省エネルギーについて、私はエコアクション21の審査委員を担当しており、気になった部分がある。82ページの⑤について、事業所等における環境マネジメントシステム「エコアクション21」の普及を促進する、となっているが、EMS、環境マネジメントシステムそのものはISO14001もあるので、ここについて「エコアクション21」に特化した特別な理由があったのか。例えば、環境マネジメントシステムだけで括弧して、「エコアクション21」やISO14001、まだ少ないがSBTなどそういったところも入ってくるので、この表現のように特化した理由はどのようなものなのかと思った次第である。</p>
事務局	<p>特に理由はありませんのでご指摘のとおり修正いたします。</p>
委員	<p>2050年の再生可能エネルギー導入目標の規模感の太陽光の建物系について、実際にできれば理想であると考えたが、最初の会長の発言のとおり現実問題として、2万2,000戸にソーラーパネルを上げるというのはすごく厳しいのかなと思った。</p> <p>日本の食料自給率は40%を切っている。食や農業を守るという意味で、建物系の割合を耕作放棄地やソーラーシェアリングの土地系に移行していけたらいいと思う。</p>
事務局	<p>色々なご意見を頂戴しました。</p> <p>委員からありました誰一人取り残すことなくという意見はご指摘のとおりですので、そのようにさせていただきたいと思っております。</p> <p>木質バイオマスの地産地消的な取組を正しく活用することが必要であるということ、その後に発言された外国人や個人の土地の取得に対して市の考えをしっかりと持つこと、また地下水を守ることなどに関しても改めて理念などを含めて取り組む必要があると整理したところです。</p> <p>具体例として資料の設備利用率や稼働率についてご指摘がありましたのでわ</p>

かりやすく示したいと思います。エアコンの設定値も目標をどのようにするのかを決めていく必要があると思いました。

再エネの前に省エネの取組について ZEB 化をもっと明確にすべきではないかということも仰っていたと思いますので、公共施設の ZEB 化の表記について実行計画内でどうしていくかを考えていく必要があるというふうに思ったところです。

都市緑化についても市民の納得感が大事であるとのこと指摘だと思いました。

委員からは実例というか、現場の声ということでも貴重なご意見をいただきました。

今後銀行とか建設会社、工務店等に向けた環境リテラシーというか、地球温暖化対策、再生エネルギーの導入を進める必要があることを理解したうえで、経済的なメリット、経済も環境もどちらも大事ということを理解していただくような取組も必要なのだと考えさせてもらいました。ごみ分別についても色々ご提案いただきましたので、関係する部署と協議しながら取り組んでいきたいなと感じたところでございます。

指摘というものではありませんが、ありがたいお話をいただきました。また、具体的に今後どのように審議会を進めていくのか、ルールづくりについてのご助言をいただきました。新しい事業者の説明したこと自体が逆にアライバイとして使われないように気をつけていかなければならないといったところでございます。

色々な効率のことを含めてお話がありました。クオリティについての私たちの考え方、そういったものも大事だと思いました。北部小学校の例ということで子供たちの反応がすごく良くてということがありましたので、将来を担っていく子供や若者、逆に無関心層である大人に向けた発信について如何に気持ちを切り替えていただくかという課題があるのだなと感じたところでございました。

ごみの排出に伴う二酸化炭素の取組ということで、ごみの削減、一人一人の市民ができる限りごみを出さないことで二酸化炭素の削減に貢献できるのだということを仰っていただきました。

再エネ条例から市民を巻き込んでいくことの重要性をいただきました。コンパクトシティについて、まちづくりの視点でどのように再エネを活かしていくかですが、具体的な事例として歩道を融雪パイプで除雪している例をいただきました。再エネを導入することでどのようなことができるか、状況を説明していく必要があるのかと思いました。

エコアクションやEMSについてご意見をいただきました。また、タイトルの番号について①と1番のような表現の整合をとることが大事だご指摘いただきましたので改善させていただきます。

ソーラーシェアリングも含めて太陽光発電導入するため、住宅だけではなくて農地も含めてできるところから進めていくという考え方が重要であると思っ

	<p>たところでございます。</p> <p>皆様から貴重なご意見いただきましたので再エネ導入目標は形になったかと思えます。本日の意見は答申に反映する形で活かしていきたいと思えます。</p>
事務局	<p>現在3月定例会中であり、ゼロカーボンシティに関して議員から意見・質問があったところでございます。</p> <p>その中で議員から言われたことは、市民が取り組みたくなるような目印や道筋、そういったものを示していく必要があるのではないかとということです。</p> <p>まず、市民に動いてもらう必要があるというようなご意見もありましたが、まさにそのような形で市民、事業所、行政が一体となって取り組んでいくような温暖化防止計画を策定しないと進まないのかなという思いを強くしたところでございます。</p> <p>取組は様々ありますが、行政から言われたから取り組むということではなく、取り組むことによって自身のメリットにつながる取組でないと進まないという考えも強くしたところでございます。</p> <p>地球温暖化対策実行計画は来年度見直しということで、具体的にどのような形で取り組んでいくか工程を含めて見直しを行っていくわけですが、今申し上げたようなものが実現できるように、皆様のご協力もいただきながら作り上げていきたいと考えておりますので今後ともお願いいたします。</p>
事務局	<p>カーボンニュートラル達成のためには、再エネの導入、省エネの推進、森林吸収が必要になり、どういう施策体系になっているのかを資料にてお示しさせていただいたところでございます。</p> <p>審議の際には詳細を説明しませんでしたでしたが、再エネと省エネ、両方とも、進めていかないと達成しないということを委員の皆様にご認識いただきましたので、そのことについて来年度実際どのように進めていくのか議論を進めさせていただければと思えます。</p> <p>委員からご指摘いただきましたがやはりすごい数字ですので、もしかしたらただのファイティングポーズに見えるかもしれませんが取り組まなくてはならないものですから、引き続きご協力をよろしくお願いしたいと思えます。</p>

(5) その他

事務局から次回審議会、答申の日程等について連絡があった。

(6) 閉会